

# 全国鳥類繁殖分布調査

## 2022年度成果報告

2023年3月28日

鳥類繁殖分布調査会



ゴイサギ(湯浅芳彦)

全国鳥類繁殖分布調査の最終報告がでて、1年が経ちました。その成果が、自然保護施策に活用され、論文、記事などにまとめられています。2022年度の成果をご報告します。

### ゴイサギとバンが狩猟鳥獣から解除

繁殖分布調査では、ゴイサギは1990年代は236コースで6197羽が記録されましたが、2010年代は93コースで738羽と大きく減少していることがわかりました。そしてバンは87コース202羽が42コース84羽といずれも半分以下に減っていました。それにも関わらず、この2種は狩猟鳥獣に指定されていました。個体数の減少とともに、狩猟数も減っていますし、同様の環境に生息するほかの種も減少しているので、減少要因は狩猟ではなく、生息環境の悪化だと思われそうですが、それでも狩猟が減少に拍車をかけてしまう危険性があります。

ちょうど狩猟対象種の見直し作業が行なわれていたので、環境省の担当部署へ、ゴイサギとバンの現状を伝えるとともに、狩猟対象種からの解除を提案したところ、関係者へのヒアリング、専門家による審議やパブリックコメントを経て、2022年9月15日、ゴイサギとバンが狩猟鳥獣の指定から解除されることになりました。

植田陸之 (2022) 全国鳥類繁殖分布調査の結果でゴイサギとバンが狩猟鳥獣から解除に. バードリサーチニュース 2022年9月: 2  
<https://db3.bird-research.jp/news/202209-no2/>

### レッドリストの改訂に貢献しています

現在、環境省のレッドリストの改訂作業が行なわれています。2023年度いっぱい検討が行なわれ、その後、新しいリストが公開される予定です。検討にあたっては、本調査の結果が使われており、それをもとに新たに

レッドリストに掲載される種や、ランクの変わる種がでる予定です。ランクが確定し次第、皆さんには報告させていただきます。また、都道府県や市町村版のレッドリストにも利用されており、2022年度は、三重県、福岡県、安曇野市のレッドリスト改訂のために情報提供しました。

### 越冬分布調査の最終報告が公開されました

繁殖分布調査と並行して行なってきた越冬分布調査も完成し、最終報告を公開しました。寒さに弱いと考えられる浅水域を利用する種、地上利用種、飛翔性昆虫を利用する種などの分布拡大が顕著であることがわかり、気候変動の影響も考えられました。



最終報告: <https://www.bird-atlas.jp/news/wba.pdf>

英語版: [https://www.bird-atlas.jp/news/wba\\_e.pdf](https://www.bird-atlas.jp/news/wba_e.pdf)

東京版: <https://www.bird-atlas.jp/news/wbtokyo.pdf>

繁殖期と越冬期を比べられるサイト:

[https://www.bird-research.jp/1\\_shiryu/atlas.html](https://www.bird-research.jp/1_shiryu/atlas.html)



温暖な場所に偏って分布するヤマガラ、ヒヨドリ、メジロ、寒冷な場所に偏って分布するメボソムシクイ、ウソ(撮影:三木敏史)

## 各種鳥類の分布と気温の関係をまとめました

気候変動が鳥に与える影響を考える上で、それぞれの種がどのような気温帯に分布しているのかを知ることが重要です。繁殖分布調査のデータを使って、それを集計しました。温暖な地域に偏っている種としては、ヤマガラ、ヒヨドリ、メジロが、寒冷な地域に偏っている種としてはメボソムシクイとウソなどがあげられました。この値を、現在とりまとめが進められている、モニタリングサイト1000の総合解析などに役立てていこうとしています。

植田睦之・山浦悠一・大澤剛士・葉山政治 (2022) 2種類の全国調査にもとづく繁殖期の森林性鳥類の分布と年平均気温. Bird Research 18: A51-A61. <https://db3.bird-research.jp/news/202206-no5/>

## ガビチョウの在来鳥への影響はわからず

調査結果を利用して研究を進めた早稲田大学の西川さんのガビチョウの研究がバードリサーチ鳥類学大会で発表されました。西川さんたちは、1990年



ガビチョウ(撮影:橋本和司)

代と2010年代のデータを使うことで、分布拡大の特性と、分布が在来鳥類へ与える影響について検討しました。分布拡大については、ガビチョウは標高が低く、気温が低く、降雪量が少ない場所で分布を拡大させやすいことがわかりました。また、ガビチョウの分布拡大が影響をおよぼすと考えられる在来種としてウグイスとヒヨドリへの影響を検討しましたが、ガビチョウの存否や個体数の増加によりウグイスとヒヨドリが減少するということは確認されず、ガビチョウが在来鳥類の分布や個体数に影響しているとは言えなかったそうです。

西川大生・風間健太郎 (2023) 外来種ガビチョウの個体数増加による在来鳥類への影響. 2022年度バードリサーチ鳥類学大会

## その他の成果

### 記事

- 植村慎吾 (2022) アカショウビンが増えたって本当? Birder 2022年4月号: 70-71
- 植田睦之 (2022) 増えた猛禽, 減った猛禽. Birder 2022年9月号: 72.
- 植田睦之 (2022) ヒヨドリは減っている? ~地域・標高により違うヒヨドリの増減~. バードリサーチニュース 2022年11月: 2

<https://db3.bird-research.jp/news/202211-no2/>

### 講演

- 植田睦之: 全国鳥類繁殖分布調査でわかった日本のそして大阪の鳥の現状と変化. 大阪市立博物館. 2022/6/18
- 植田睦之: キミのまわりも温暖化? 身近な野鳥から見つける気候変動のサイン. 円山動物園 2022/8/6

## 成果が使われた書籍



鳥の巣と卵はどこにある?  
大阪市立博物館 ¥1,200  
<https://omnh-shop.ocnk.net/product/1936>



カワセミの暮らし  
笠原里恵, 緑書房 ¥2,420